

## 「島倉千代子さんの生涯におもう」

尾畑 英和

昨年11月、歌手の島倉千代子さんが亡くなりました。75年のご生涯でした。亡くなる直前に自宅でレコーディングした「からたちの小径」という歌が彼女の葬儀で流されたのを覚えている方も多いと思います。彼女は7歳の時、疎開先の長野で転んだ拍子に割れたビンで左手を切り、47針の重傷を負い死線を彷徨いました。またそのことが原因で、小学校でイジメに遭い、全く口を利かない子どもになったそうです。そんな娘を案じた母が歌を教え、その後、「のど自慢大会」に何度も出場、16歳の時、コロンビア全国歌謡コンクールで優勝し、念願の歌手デビューを果たしたのです。その後、数々のヒット曲に恵まれながらも、私生活では苦勞の絶えない人生でした。離婚、3人の子どもの中絶、巨額の借金、乳癌そして3年前からの肝臓癌等々、波乱に満ちたものでした。そんな中、大ヒットした自身の代表作「人生いろいろ」という曲の歌詞は自分の人生そのものだったといわれています。歌以外は不器用にしか生きられなかった島倉さんが、生前周囲に「苦難が多ければ多いほどそこに人生の味わいがあり、この世に生まれてきた意味が深まる。人を恨んだり憎んだりする人生は悲しい人生であり自分がみじめになるだけ。」と語っていたとのこと。私たちの人生は、多かれ少なかれ苦難や迷いの連続ですが、我が身に起こる事柄のそのひとつひとつが、実は「生きることの意味」を私に問いかけてくれているのです。漏れなく、「私という人間存在そのもの」の深い意味を問い返してくれるのです。その事実と向き合うことで本当の私に出会うことができるのです。仏法に出会い、仏さまの願いにふれることを通して本当の私に出会い直していく道が開かれていくのではないかと思います。